



**編集責任者**  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp  
名張鳥獣害問題連絡会

**発行部数**  
【全戸回覧】  
錦生地区：100部  
赤目地区：150部  
箕曲地区：70部  
ひなち地区：60部  
つつが丘：430部  
【全戸配布】  
国津地区：380部  
市民センター：90部  
(9地区)  
名張市議会：20部  
名張市役所：20部

# 電気柵管理体制 会計検査院指摘

近年シカやイノシシの増え方も尋常ではありませんが、電気柵を含む獣用の侵入防止柵は、年に約1万キロと増え、年々約1万キロと増えています。これらも尋常ではありません。

そのなかでも電気柵の増え方は凄く、交付金をもとに設けられた防止柵の総延長は全国で4万55万キロに達しているそうです。

農林水産省は10年前から、山間部に近い自治体などに合わせて800億円を超える交付金を出して、動物が畑に侵入するのを防ぐ「電気柵」を設置しています。

800億円超の交付金電気柵が200カ所以上で、維持管理や設置方法に問題があることが原因で、計約5億円分の農作物被害が出ていると指摘されています。

原因はどこにあるのか探ってみましょう。まず交付金とはどういうものか。

交付金の意味は広く、補助金と同様に国または地方自治体が特定の目的をもって支給するお金のことを指します。また、規模に関して少額のものから億単位のものもあり、補助金と比べ極めて大きいのが特徴で、事業遂行まで複数年に分けて交付される場合もあります。

交付金による電気柵設置の殆どが中山間地域に集中しています。



雑草に覆われた柵  
名張市某所で  
撮影 山村 準

流れを塞ぎ止めた柵  
大雨時洪水の危険！  
名張市某所で  
撮影 山村 準

電気柵などで、ほ場を囲うことはとても有効な対策です。だが、電気柵の持続的に維持管理をするには地域全体で取り組む必要があります。中山間地域集落では過疎・高齢化が進み、道路や水路の清掃作業、防犯・防災活動、集落施設の管理といったそこに住み続けるために必要な活動や、祭り・運動会などの季節行事の開催、共同作業などがままならないまま集落機能が低下している現状があります。

集落の荒れる原因の背景には中山間地域の疲弊・衰退があると指摘されています。中山間地域の現状では放置も「やむなし」といわざるを得ません。

会計検査院のご指摘は理解できませんが、地域の現実を知ってか知らずか、机上の空論ばかり唱える上から目線の農水省の施策には、ただただ失望感を覚えるばかりです。

今後は、被害対策の基本認識を大きく改め野生動物との「緊張感

## どうなる 中山間地農業

ある棲み分け」を図る対策を考える転換時期が来ているのではないのでしょうか。

中山間地は、国土の骨格部分に位置し、全国土の7割程度の面積を占め、総人口の約14%が居住する地域です。また、耕地面積、農家数、農業生産額で全国の約4割、全体の農業集落数の約5割を占めるなど我が国農業の中で重要な地位を占めています。

中山間地域では集落の整備など生産基盤の整備が遅れていて傾斜地が多く、まとまった耕地が少なく零細な農家が大半を占め、生産性が低い農業構造となっています。このため農業所得は、平坦な地域に比べて少なく、加えてイノシシやシカなど野生動物に田畑を荒らされることによる農作物被害の多発などから、農業を営む担い手も減少し過疎化が進展しています。正に、祖先伝来の農地を守るために住んでいるというのが実態で、とても農業では食べていきけません。

中山間地域の鳥獣被害は、農業者の営農意欲を低下させ、耕作放棄地の増加の一因となっており、耕作放棄地の増加がさらなる鳥獣被害を招くという悪循環を生じさせ、被害額として数字に現れる以上の精神的なダメージを農家に及ぼしています。鳥獣被害は中山間地域を中心に全国的に深刻化・広域化していますが、中山間地では年寄り達が、集落の環境整備や追い払いまた畑を柵で囲むなど「ありとあらゆる手段」を講じてきましたが、鳥獣には勝てずお手上げというのが現状です。

現在では殆ど野生動物は、中山間地域集落に生息しているといっていないほどです。

過疎化・高齢化、耕作放棄地の拡大が進展する、被害最前線である中山間地域の活性化を図ることが獣害対策の重点課題と位置付け国は対策を講じるべきと考えます。

中山間地をどうするか。今、国に突き付けられた大きな問題です。

### 人間との共存へ 個体数管理が鍵

三重県伊賀市など集落同士の連携による広域対応でサルを追いかける取り組みが、例もあり、同センターの山端直人主任研究員(48)は「サルは記憶力が良いので、人と場所を怖が

しており、繁殖のための交流が難しく、それぞれの群れの頭数も多くなり、生息環境は決して盤石とはいえないという。同じく獣害を起すシカやイノシシなどと違い、狩猟の対象動物ではない。「種の保存」という保護の観点も念頭に、人間との共存を目指した対策が必要だ。

対策の2本柱は「個体数管理」と「追い払い」だ。人間の生活圏を「餌場」と認識させない点は他の動物とも共通。柵と電線を組み合わせたように兵庫県香美町で考案された電気柵「おじろ用心棒」の普及が県内で進んでいる。群れの規模が大きすぎると追い払いが難しく、「個体数管理」も鍵となる。篠山市では大人のメスが15匹以下にならず、追い払いもしやすい1群40匹規模を目標としている。また、人慣れして危険性が高い個体を除き、メスは原則駆除していない。

モグラは非常に排他的で、ほとんどの場合、ひとつの巣に原則一匹しか住んでいません。モグラは匂いに敏感。モグラのように地をほう哺乳動物は匂い情報は非常にだじで臭覚は発達しています。モグラの嫌がる強烈な匂いが侵入防止対策になり、また逆に、好物のミミズを捕獲器の中に入れて仕掛ければ、

## モグラの生態と被害

モグラは、この地方ではオゴロ、オンゴロなどの呼称があります。

モグラ被害は表面化していませんが、農家としては困った問題となっています。

モグラは一日に、「自分の体重と同じだけのミミズ」を食べなければ生きていけず、もし、10時間以上捕食しないと死ぬともいわれる大食漢です。

モグラを対策では、その習性と巣の構成を知った上で対処することが大切です。

モグラは非常に排他的で、ほとんどの場合、ひとつの巣に原則一匹しか住んでいません。モグラは匂いに敏感。モグラのように地をほう哺乳動物は匂い情報は非常にだじで臭覚は発達しています。モグラの嫌がる強烈な匂いが侵入防止対策になり、また逆に、好物のミミズを捕獲器の中に入れて仕掛ければ、

らせれば、撃退効果は上がる。住民のまとまりと力が欠かせない」と指摘する。

2017・11・11  
神戸新聞引用

匂いを頼りによってき  
たモグラを捕まえるこ  
とができます。  
モグラは聴覚が発達。  
モグラは、聴覚も発  
達しています。  
モグラは、視覚は敗  
退しほとんど目が見え  
ませんが、目の代わり  
に耳を頼りに行動して  
います。ミミズが土中  
をばう音や地上を歩く  
大型動物の音を聞き分  
けるとまでいわれてい  
ます。  
モグラが嫌がる音波  
が断続的に流れていれ  
ば、モグラが音に慣れ  
ることなく、侵入する  
ことができなくなりま  
す。よく見かける風車  
などの連続音はすぐに  
慣れ防除効果は低い。  
モグラは雨をしのげ  
る木の根っこなどに巣  
を作り、その巣を中心  
にして複雑にトンネル  
掘ってエサとなるミミ  
ズがたくさんいる田畑  
へと侵入していきます。  
地中にいるモグラを  
見つける方法。  
モグラを退治するに  
は、モグラがどこにい  
るかを知る必要があります。  
モグラのトンネ  
ルは、ほとんど使わな  
い支道と常時使用する  
本道で構成されていま  
す。本道を見つけない  
は、盛り上がったトン  
ネルをすべて潰して地  
面を平らにします。  
そのいずれかが本道だっ  
た場合は、モグラは焦っ  
てトンネルを修復し地  
表が盛り上がるのです

ぐわかります。  
そこが本道です。  
本道の入り口は石や  
柵の下など、雨を避け  
ることができるところ  
に作られていることが  
多いので、それも目印  
に探して見て下さい。  
本道が見つければ対  
策です。  
モグラ用として多様  
な忌避剤が市販されて  
いますが、一般に使わ  
れている「ナフタリン」  
を本道に仕掛けるのが  
効果的で防除効果が期  
待できます。また、本  
道に捕獲器を仕掛ける  
のも効果的な方法です。  
※何故かモグラは鳥獣  
保護法によって保護さ  
れているので、捕獲に  
は都道府県知事の許可  
が必要になります。  
一匹捕まえるだけで  
ほとんどの場合、その  
畑のモグラを全滅させ  
たことになりす。  
ある程度決まった範  
囲内を恒久的に防除し  
たい場合、その周辺に  
金網やトタンを深さ50  
〜60センチほどで埋め、物  
理的に防除する方法も  
あります。  
モグラは肉食なので、  
農作物を食べることは  
しません。畑や田ん  
ぼを穴だらけにしたり、  
土を改良するミミズを  
食べるので、農作物の  
できがわるくなります。  
野ねずみがモグラが  
使用しない支道を利用  
し根菜類を食害する被  
害を起こします。  
「モグラにサツマイモ

やられた！」とよく聞  
きますが実はネズミ被  
害でモグラには迷惑な  
話です。  
被害は目立たないが  
農家にとってははやくか  
いな問題です。  
因みに、日本に生息  
するモグラは大半が  
「アズマモグラ」と  
「コウベモグラ」でア  
ズマモグラは本州中部  
（静岡県・長野県・石  
川県）以北一帯と紀伊  
半島などに生息し、コ  
ウベモグラは本州中部  
（静岡県・長野県・石  
川県）以南、四国、九  
州などに生息。

モグラは地表から50センチほどの地  
中に、地表から引きずりこんだ落ち葉を  
敷いて巣をつくっています。巣につなが  
るトンネルを深さ20センチほどのと  
ころに掘って、1日に3〜4回ほどえさを  
探して動き回っている。畑にはミミズ  
が多いから、モグラの穴もたくさんあり  
ます。モグラの前脚は横に突きだしてい  
て、体の大きさにぴったり合ったトンネ  
ルの中をすばやく移動できる。そのかわ  
り、地上では動きがとても鈍くて、犬や  
猫にねられやすい。モグラにとって地  
上は危険な場所です。  
朝日新聞ののちゃんD0科学より抜粋



本文に引き続き  
**モグラの話**  
モグラが地上に出てくるのは、大雨で  
水びだしになったときか、子が成長して  
親元を追い出されたときぐらい。わが子  
さえ邪魔者あつかいするのは、縄張り意  
識が強いから。子は別の場所に穴を掘っ  
て自分の縄張りをつくるんです。5月か  
ら7月頃死んだモグラをよくみかけるの  
もこのころです。  
モグラはおもに土の中のミミズを食べ

今年も残すところあ  
と僅かとなりました。  
一年間愛読頂きまし  
た皆様方に心より感謝  
申し上げます。  
猿新聞発行につきま  
しては各方面に多大な  
サポートを頂いている  
ことを、この場を借り  
て感謝を申し上げます。  
来年も誠心誠意努力  
していく所存ですので、  
より一層のご指導ご鞭  
撻を賜りますようお願い  
申し上げます。  
来る年が皆様方にとつ  
て良い年であるよう心  
より念じています。

**名張B群移動状況** 平成29年9月23日～10月21日

**指導員報告**  
B群は、10月下旬は上三谷集落で  
見かけることが多かった。煙火で  
の追い払いも再三実施した。  
11月初旬からは赤目町一ノ井方  
面から宇陀市西谷方面へ移動し旧  
西谷小学校付近の山中で電波受信。  
11月中旬には赤目町一ノ井、上  
三谷、矢川方面を行ったり来たり  
を繰り返している。  
10月下旬の台風による崖崩れ等  
で車を災害対策優先に利用したの  
で益々電波受信困難となる。サル  
も移動ルート変更しているように  
思われる



**名張A群移動状況** 平成29年9月23日～10月21日

**指導員報告**  
A群は10月下旬からは、中知山方  
面青蓮寺ダム湖青蓮寺橋周辺と県  
道曾爾名張線沿いの香落橋間の山  
中と道路での活動が多く、目視す  
ることも多かった。  
11月初旬には曾爾名張線沿いの  
香落橋間の山中から青蓮寺ダム管  
理所を通り比奈知ダム方面に移動。  
比奈知ダム湖周辺で目視する機  
会が多かった。  
11月中旬は青蓮寺湖周辺に戻り  
湖畔で活動している。





